



北海道大学 社会科学実験研究センター

2019 年度自己点検評価報告書

2020 年 3 月



北海道大学 社会科学実験研究センター
2019 年度自己点検評価報告書(2020 年 3 月)

※センターの沿革などについてはホームページへ移行しました。
<https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/>

1. 社会科学実験研究センターとは

(1) センターの理念

- ・社会科学における実験研究のための手法の開発と普及を通して、社会科学の実験科学化を推進する。
- ・社会科学における実験研究の本格的導入により、人間科学と社会科学の双方に対して共通の対話可能な研究環境を提供する。
- ・人間・社会科学における実験研究のための国際実験ネットワークの構築を進め、世界各国の拠点を結ぶ国際実験の促進をめざす。
- ・実験研究を通して人間科学と社会科学とを結びつけるための研究活動を行い、その成果を国際的に発信することのできる若手人材を育成する。

(2) センターの主な役割

- ・社会科学実験の国際拠点として先端的研究を展開し、研究成果を国際発信する。
- ・社会科学実験の中心として、他大学の研究者との協力のもと、若手研究者を育成する（博士研究員・リサーチャーの受け入れ、ワークショップの開催等）。

(3) 施設概要

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 6 階に、1) 集団実験室、2) 国際ネットワーク実験室、3) 感覚システム実験室を有している。これらの実験設備は、国際的にも最高水準の社会科学実験施設である。

2. 2019 年度の活動実績の概要

(1) 施設利用

- ・実験室稼働総日数：年間延べ 99 日
- ・利用プロジェクト総数：16 件（うち外部利用 7 件）
- ・実験参加者総数：延べ 1,486 名

(2) 研究業績

＜人文・社会科学系の兼務教員に限定＞

- ・著書・分担執筆：和書 21 件
- ・学術論文：計 49 件（うち国際誌 26 件、国内誌 23 件）
- ・学会発表：計 93 件（うち国際学会 29 件、国内学会 64 件）

（詳細は「p. 7～12 研究業績一覧」参照）。

(3) 競争的資金獲得

- ・39 件、総額 922,213 千円
- ・内訳：科学研究費補助金 32 件（913,670 千円）（※分担者に関しては交付総額を参入）、その他の研究助成金等 7 件（8,543 千円）（詳細は「資料 5 競争的資金獲得状況(p. 5～6)」参照）

(4) 拠点間連携

海外の先端研究拠点との連携を引き続き推進してきた。2015 年度には、オックスフォード大学認知進化人類学研究所所長、また同大学社会人類学科学科長であり、著名な認知人類学者である Harvey Whitehouse 教授、2016 年度には、香港科技大学社会科学部准教授であり、環境心理学・文化心理学を専門とする Kim-Pong Tam 准教授を本センターの連携研究員に採用した。前センター長の結城は、Whitehouse 教授らが主導する心理学・人類学・歴史学を融合して人間行動と文化の進化・発展を検討する世界的共同研究プロジェクト Seshat へ参画し、またセンター長の大沼進教授は Kim-Pong Tam 准教授との共同研究を推進している。2017 年度にはさらに立命館大学総合心理学部の仲真紀子教授を連携研究員に採用した。

(5) 若手研究者の支援とその成果

- ・本センターで研究を行った大学院生の競争的外部資金獲得：10 件、学術賞：3 件(表 1)
- ・日本学術振興会特別研究員：5 名(表 2)

表 1 2019 年度に院生および研究員が獲得した学会賞・学術賞・フェローシップ・研究助成

氏名	獲得年度	学会賞・学術賞・フェローシップ
館石和香葉	2019	科学技術融合振興財団助成事業補助金助成
横山実紀	2019	科学技術融合振興財団助成事業補助金助成
横山実紀	2019	公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団 国際交流助成
館石和香葉	2019	日本社会心理学会 大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度 2019
鎌谷美希	2019	2019 年度日本人間行動進化学会若手旅費支援
前田友吾	2019	2019 年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞
中田星矢	2019	2019 年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞
横山実紀	2019	日本心理学会学術大会特別優秀発表賞
奥山新斗	2019	北海道大学大学院文学院 共生の人文科学プロジェクト旅費支援
館石和香葉	2019	北海道大学大学院文学院 共生の人文科学プロジェクト旅費支援
中田星矢	2019	北海道大学大学院文学院 共生の人文科学プロジェクト旅費支援
本間祥吾	2019	北海道大学大学院文学院 共生の人文科学プロジェクト旅費支援
前田友吾	2019	北海道大学大学院文学院 共生の人文科学プロジェクト旅費支援

表2 日本学術振興会特別研究員

氏名	資格	受給期間 (年度)	研究費 (千円)	研究課題名
伊藤 資浩	DC1	2017～ 2019	1,000	注意ネットワーク理論 に基づく注意の意図的 制御メカニズムとその 神経基盤
亀田 将史	DC1	2018～ 2020	1,000	大脳基底核と小脳の時 間情報処理に関する研 究
澤頭 亮	DC1	2019～ 2021	1,100	霊長類モデルを用いた 作業記憶を更新する神 経メカニズムの解明
山内 健司	DC1	2019～ 2021	1,100	視覚的印付けにおける 抑制テンプレートの可 塑性と現実場面への拡 張
横山 実紀	DC1	2019～ 2021	500	忌避施設立地問題にお ける段階的意思決定の 事前合意：潜在的当事 者と公正の実証研究

(6) 教育活動

- ・当センターで研究を行っている大学院生たちが、Hokkaido Summer Institute 2019 プログラムで本学に招聘された世界第一線の文化心理学者（アルバータ大学心理学部・増田貴彦教授、ウィスコンシン大学グリーンベイ校心理学部・先崎沙和准教授）から研究指導を受けた。これは当センターの独自の取り組みであり、同事業との相乗効果をはかった。
- ・国内外からゲストスピーカーを招き、CERSS コロキウム、共催ワークショップ、学術セミナー等を随時開催した（資料1）。



図1 増田教授による大学院生への指導風景

3. 2019年度の活動の点検・総括

(1) 4つの目標別の点検・評価

① 社会科学実験の国際拠点としての先端研究の展開
実験室稼働日数は年間延べ99日、実験への参加者総数は延べ1,486名であった。このうち、本学外の研究者による利用延べ件数は7件、実験参加者総数は790名であった。参加者のほとんどは本学の学生であったが、この規模での実験研究の組織的推進

は国内において類例がなく、国際的にも屈指の規模である。2020年1月にThe Arctic University of NorwayのDirector of Centre for Economic ResearchであるStein Østbye教授が当センターを訪問・見学した際にも、実験設備の充実と実績を高く評価したため、センター間連携に向けた議論を前進させつつある。

② 社会科学実験分野における有為の若手人材の育成
「若手研究者の支援とその成果」(p.1)にも示したように、本センターに活動基盤を置く若手研究者は3件の学術賞を得た。また、日本学術振興会の特別研究員として5名が採用され、10件の競争的外部資金（特別研究員奨励費5件を除く）を獲得した。これらの結果は、当センターが、自立した研究者の育成に向けて、若手が早期から主体的な研究活動を行えるための場を提供してきたことの成果と言える。

国内外のゲストスピーカーを招きCERSSコロキウムを2回実施した。また、Hokkaido Summer Institute 2019として文学研究院が開催した、アルバータ大学心理学部の増田貴彦教授による集中講義

「Frontiers in Cultural Psychology 2019」の開講を支援し、その機会をより有効に活かすために大学院生向けの英語論文執筆ワークショップを開催した。

若手を含む海外の研究者を兼務教員が受け入れ、国際共同研究を支援した。本年度は1名の中長期滞在者を受け入れた。

これまで当センターで教育指導を受けた若手研究者は、実験社会科学を担う有為の人材として国内外の大学や研究機関に職を得、また高く評価されている。例えば就職面では、東京学芸大学准教授、高知工科大学准教授、明治学院大学准教授、岩手医科大学助教、玉川大学准教授、宮城学院女子大学准教授、広島大学特任助教、広島修道大学教授、静岡大学特任准教授、大正大学准教授、北星学園大学専任講師、安田女子大学講師、帝京大学講師、大東文化大学講師など国内主要大学・主要研究拠点で常勤職を得てきた。2019年度には新たに名古屋大学准教授、高知大学特任准教授、作新学院大学准教授、長崎大学経済学部助教の職を得た。また海外では、Southampton大学（英国）助教授、William & Mary大学（米）准教授、嶺南大学（香港）准教授、北京中央民族大学（中国）研究助手、St Andrews大学（英）・Oxford大学（英）・Melbourne大学（豪）のポスドク研究員などとして、世界に活躍の場を広げてきた。

以上のように「社会科学実験分野における有為の若手人材の育成」という所期の目標が着実に達成されている。

③ 国際的にインパクトのある研究成果の発信

2019年度には、計46本の国際学術論文が掲載もしくは掲載決定し、43件の国際学会発表がなされた。本センター構成員による学術論文は、Scientific Reports、Proceedings of National Academy of Science of the United States of America（総合科学）、Judgment and Decision Making（心理学）、Neuroscience &

Biobehavioral Reviews（脳神経科学）など広範な領域にまたがる第一線の国際学術誌に掲載された。また、本センター構成員による論文は、心理学、経済学、経営学、社会学、政治学、法学、人類学、情報科学、進化生物学、動物行動学、社会物理学など、やはり広範な領域の国際学術誌で多数の引用を受けている。とりわけ、*Scientific Reports*に掲載された論文は、ダウンロード件数トップ100に選ばれた。

図2は、本センター構成員による論文の国際学術誌における引用回数の推移を示している。この図から、本センターが発足した2007年以降、国際業績が着実に増加傾向にあることがわかる（注：本センターには、2013年度より新たに医歯薬系部局からの兼務教員が加わり国際学術論文の被引用数が急増した。しかし、人文・社会科学系と医歯薬系では平均的な被引用論文数に大きな相違がある。そこで下図では、業績の推移を公正に評価するために、人文・社会科学系の構成員による研究成果のみを掲載した。）以上のように、「国際的にインパクトのある研究成果の発信」という所期の目標の達成に向け、着実な進展が見られる。

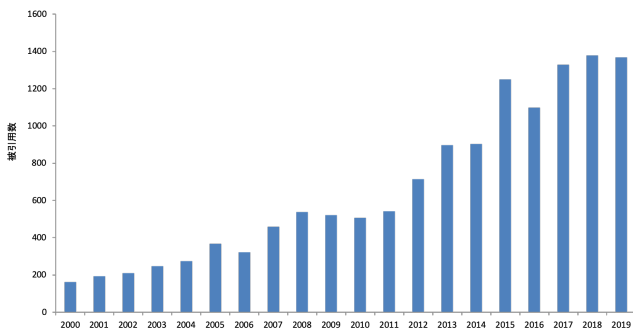


図2 国際学術誌における論文被引用数の推移。

④ 国内外の研究拠点との連携強化を通じた、人間・社会科学における実験研究のための国際ネットワークの構築

本センターは、大型研究資金（新学術領域研究、科研費基盤Sなど）の獲得などを通じて、国内外の主要研究拠点（東京大学人文社会系研究科・総合文化研究科、京都大学霊長類研究所、玉川大学脳科学研究所、北陸先端総合科学大学院大学、名古屋大学情報学研究科、英オックスフォード大学認知進化人類学研究所、独マックスプランク進化人類学研究所など）との間に共同研究体制を構築してきた。これらの連携先から若手を含む海外の研究者を受け入れ、彼らが当センターのインフラを使用して国際共同研究を展開している。

2020年1月30日付で日本学術会議が公開した「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン」（マスタープラン2020）では、学術大型研究計画（区分I）の一つに「調和ある多様性に向けての新しい心理学の構築」が採択され、北海道大学もその実施機関に含まれている。同計画は、マスタープラン2010、および文科省「最先端研究基盤事業」の補助対象事業としても採択された「心の先端研究

のための連携拠点（WISH）構築」事業で積み重ねられた実績を、さらに次のフェーズへと飛躍させるものであると位置づけられている。WISH事業では、本センターに対してシーメンス社製3テスラMAGNETOM Prisma（施設整備費補助事業;3億円）が導入され、現在も本センターの主要な研究設備として稼働している。同装置は本学医歯学総合研究棟に設置され、本センターに所属するメンバーだけでなく、医学系から理学系、教育学系に至る全学の研究者によって幅広く利用されている。本装置の導入を通じて、学内の部局間に加え、学内外の先端研究拠点間の壁を超えた研究連携が推進されている。

（2）総括と今後の展望

以上のように、本センターは、教育および研究活動を通じて、社会科学実験の国際的中核拠点としての高い評価を確立してきた。こうした実績は、「社会科学実験に関する教育研究の進展に資することを目的とする」という本センターの設立目的（北海道大学社会科学実験研究センター規程第2条）に適うものである。

以上を踏まえた今後の展望として、社会科学実験の国際的中核拠点としてなお一層の発展を目指す。このために、当該分野の研究者の研究・教育活動を引き続き強力に支援していく。

この活動を具現化するものとして、マスタープラン2020「心の先端研究拠点」の実施機関の一つとして本学が含まれることに鑑み、当センターとしても他機関とのネットワークを強化しつつ、調和ある多様性に向けての研究を展開する。同マスタープラン2020心の先端研究は、「人類がAI、ロボットとの共生社会に何を期待しているのか、誰のための技術開発、未来設計なのか、人類がどのような環境を未来に繋いでいくべきかを考えるうえでの「かじ取り役」の役割を果たす。」と謳っている。本センターもこうした問題に貢献すべく、実験社会科学の推進を通じて、文理融合また分野横断的な研究を着実に進めていく。

その上で、現代社会が直面する様々な社会問題の解決に資する活動を行う。上記のマスタープラン2020は、その社会的価値を説明する中で、「自治体関係者を含む政策担当者や実務家らと協働し、具体的な政策立案を行うことで、次世代の利益を考慮した意思決定や次世代視点にたった未来社会のデザインを提案できる。」と述べている。本センターにおける研究成果は、従来からも行政に対する政策提言や助言等において活用されてきた。今後も引き続き時代の要請に応えるための活動を展開していく。

資料1 CERSS コロキウム、共催ワークショップおよび学術セミナー

日付	タイトル	講演者
2019/7/9	Cultural Psychology of Mongolians	増田貴彦(Department of Psychology, University of Alberta, Professor)
2019/11/28	From Turing Machines to Kripke Models	佐野勝彦(北海道大学大学院文学研究院、准教授)
2020/2/29 (中止)	公開シンポジウム河川でのポイ捨てを減らそう！：環境心理学の知見を活用した社会実験（環境省モデル事業速報）	森康浩（宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科、准教授）・中俣友子（東北文科大学短期大学部子ども学科、講師）
2020/3/5 (中止)	Explaining Rejections of Unfair Offers: Comparing Preference and Emotion-Based Response Behavior in Ultimatum and Impunity Games using EEG and EMG Measurements	Vincent Buskens (Universiteit Utrecht, Faculty of Social and Behavioural Sciences, Professor)
2020/3/30 (中止)	繰り返しのある公共財ゲームにおける社会的選好の計算論モデルについて	水野景子（関西学院大学社会学研究科、修士課程）・清水裕士（関西学院大学社会学部、教授）

資料2 長期受け入れ外国人研究員

2019年度	Brian Irving (Victoria University of Wellington)
--------	--

資料3 学外研究機関との共同研究による施設利用実績

社会科学実験研究センターの実験施設は、学内外の研究者が利用可能な共同利用施設である。2019年度には、学外研究機関との共同研究による実験施設の利用が7件行われており、実験参加者数は延べ790名であった。

学外研究機関との共同研究で実施された実験(2019年度)

- ・亀田達也（東京大学大学院人文社会系研究科）
「3者状況の認知処理過程に関する実験」
(2019年8月、実験参加者数132名)
- ・亀田達也（東京大学大学院人文社会系研究科）
「リスク決定の規範形成過程に関する実験」
(2019年8月、実験参加者数171名)
- ・亀田達也（東京大学大学院人文社会系研究科）
「視覚刺激選択に関する集団実験」
(2019年8月、実験参加者数54名)
- ・清成透子（青山学院大学社会情報学部）
「公共財供給に影響を与える二者間相互作用に関する実験」
(2019年8月、実験参加者数140名)
- ・中分遥（高知工科大学経済・マネジメント学群）、Mark Stanford (University of Oxford, Institute of Cognitive and Evolutionary Anthropology)

- 「日本における宗教プライミングの再検討」
(2019年9月、実験参加者数113名)
- ・黒阪健吾（北海道武蔵女子短期大学経済学科）
「公共財供給のタイミングに関する第二回実験」
(2019年11月、実験参加者数130名)
- ・堀田結孝（帝京大学大学院文学研究科）
「顔写真データベース作成に関する実験」
(2020年2月、実験参加者数40名)

資料4 アウトリーチ活動

日付	タイトル	活動内容	実施者
2019/4/25	第6回千葉DSP研究会「統合失調症に合併する脂質代謝障害の予防について」	講演	久住一郎
2019/5/29	北海道大学文学部公開講座「再－くりかえす世界－」「甦れ脳細胞！－ニューロジェネシス（神経新生）への希望」	講演	和田博美
2019/6/21	慶應義塾大学第13回SDM (System Design and Management) 社会&ビジネスゲームラボ「指定廃棄物処分立地ゲームの体験」	講演	大沼進
2019/6/28	レキサルティ発売1周年記念講演会 in 網走「統合失調症患者の身体リスク管理～糖尿病の予防を中心に」	講演	久住一郎
2019/8/3	認定心理士の会オンライン交流会「他人の立場に立って考えることの脳科学」	講演	小川健二
2019/8/5	北海道大学オープンキャンパス公開講座「注意の生涯発達心理学」	講演	河西哲子
2019/8/22	2019年日本精神神経学会サマースクール「精神医学の魅力～プラセボ効果に注目して」	講演	久住一郎
2019/8/24	課題解決型高度医療人材養成プログラム 精神領域 意見交換会「北海道大学における多職種協働医療の試み～デイケアにおけるクリニカルパスの導入」	講演	久住一郎
2019/8/26	ユニバーサルコミュニケーションデザイン研究会 第3回加齢配慮部会「認知心理学から見た気づく・気づかない広告表示の要因」	講演	河原純一郎
2019/8/26	ユニバーサルコミュニケーションデザイン研究会 第3回加齢配慮部会「外貨建て保険におけるリスク表示への注目と記憶」	講演	河原純一郎
2019/10/1	応用脳科学アカデミー「注意の制御」	講演	河原純一郎

2019/ 10/6	日本心理学会 認定心理士の会 北海道支部会シンポジウム『社会関係を実証する心理学』「心の姿と社会の姿—社会間比較研究による検討」	講演	結城雅樹
2019/ 11/1	日本精神神経学会指導医講習会「症例報告における倫理的配慮について」	講演	久住一郎
2019/ 11/5	経団連 21 世紀政策研究所「高齢者の自立と日本経済」	講演	高橋泰城
2019/ 11/8	ユニバーサルコミュニケーションデザインワード 2019 選考結果報告会「認知心理学から見た気づく・気づかない注意喚起情報」	講演	河原純一郎
2019/ 12/14	北大道新アカデミー2019 年度後期『ワールド・カルチャー・マップ～人と文化を科学する～』「欧米人はなぜ人づきあいに熱心か ～開放社会と閉鎖社会の比較社会心理学～」	講演	結城雅樹
2019/ 12/21	北大道新アカデミー2019 年度後期『ワールド・カルチャー・マップ～人と文化を科学する～』「文化の変化と心の変化」	講演	結城雅樹

資料 5 競争的資金獲得状況の詳細

文部科学省科学研究費（代表）

（社会科学実験研究センター構成員が代表を務める研究について、2019 年度に交付された直接経費の総額）

資金名	期間（年度）	代表者	
研究課題			金額 （千円）
新学術領域研究（研究領域提案型）	2018～2022	田中真樹	
知覚や行動に伴う心的時間の脳内機構とその操作			45, 100
国際共同研究加速基金	2018～2019	竹澤正哲	
文化的集団淘汰と規範の進化：マクロ・データと大規模集団実験による実証的検討			11, 100
基盤研究（A）	2016～2019	宮内泰介、他 18 名	
不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究			7, 900
基盤研究（B）	2019～2022	結城雅樹	
称賛行動の比較社会生態心理学—褒め合う社会と褒めない社会を分けるものは何か			3, 700
基盤研究（B）	2018～2021	高橋伸幸	
利他性とサンクショ、偏狭さ、外集団攻撃の間の連動についての理論的・実証的研究			2, 700
基盤研究（B）	2017～2020	河原純一郎・小川健二	
注意の逆説的投資効果とニューロフィードバック			4, 400
基盤研究（B）	2017～2020	竹澤正哲・堀田結孝	
帰納的学習を介した規範の進化と維持：新たな実験パラダイムの構築を目指して			2, 900

基盤研究（B）	2017～2019	田中真樹	
霊長類における皮質線条体経路の動的制御機構			5, 500
基盤研究（C）	2019～2021	大沼進	
無知のヴェールを用いた社会的決定過程：功利主義 vs 正義・公正を越えて			1, 100
基盤研究（C）	2017～2019	河西哲子	
知覚の体制化に基づく注意選択メカニズムとその個人差			600
基盤研究（C）	2018～2020	松尾睦	
組織メンバーの自己成長主導性メカニズムに関する研究			1, 600
挑戦的研究（萌芽）	2017～2019	宮内泰介、他 2 名	
イワシ漁業に見る社会—生態システムのレジリエンス			1, 800
若手研究	2018～2020	瀧本彩加	
ウマにおける同種他個体・ヒトとの社会的絆形成を促す心理・生理要因に関する研究			1, 000

文部科学省科学研究費（分担）

（社会科学実験研究センター構成員が分担者を務める研究について、2019 年度に研究代表者へ交付された直接経費の総額）

資金名	期間（年度）	代表者	
研究課題			金額 （千円）
新学術領域研究（研究領域提案型）	2017～2021	竹澤正哲（代表：橋本敬、他 7 名）	
言語の起源・進化の構成的理解			244, 140
新学術領域研究（研究領域提案型）	2016～2021	渡辺雅彦（代表：狩野方伸、他 31 名）	
先端バイオイメージング支援プラットフォーム			313, 500
基盤研究（S）	2016～2020	竹澤正哲（代表：亀田達也、他 6 名）	
集合行動の認知・神経・生態学的基盤の解明			182, 650
基盤研究（A）	2017～2020	宮内泰介（代表：丸山康司、他 10 名）	
エネルギー技術の多元性と多義性を踏まえたガバナンス方法の研究			5, 900
基盤研究（A）	2019～2022	小川健二（代表：乾敏郎、他 3 名）	
身体イメージを基礎とする社会的認知過程の自由エネルギー原理による統一的理解			110, 000
基盤研究（A）	2017～2020	小川健二（代表：明和政子、他 2 名）	
身体的表象から自他分離表象にいたる発達プロセスの解明			7, 000
基盤研究（B）	2019～2021	篠田朝也（代表：梶原武久、他 5 名）	
原価企画とイノベーションの関係に関する学際的研究			5, 500
基盤研究（B）	2016～2019	竹澤正哲（代表：大平英樹、他 5 名）	
紛争と協力の文化進化的基盤に関する学際的研究			18, 720
基盤研究（B）	2017～2020	小川健二（代表：今泉寛、他 1 名）	

予測誤差と運動主体感をつなぐ神経機構の解明		5,800
基盤研究 (B)	2017～2021	宮内泰介 (代表：関 礼子、他 6 名)
語り継ぐ存在の身体性と関係性の社会学—排除と構築のオラリティ		3,200
基盤研究 (B)	2018～2020	宮内泰介 (代表：西城戸誠、他 6 名)
再生可能エネルギー事業開発にかかわるアクティビズムと合意形成に関する比較研究		5,400
基盤研究 (C)	2018～2020	小川健二 (代表：柴田寛、他 1 名)
多感覚の表象に基づく言語の理解と表出に関わる脳機能モデルの構築		900
基盤研究 (C)	2019～2021	小川健二 (代表：杉尾武志、他 1 名)
図的表現を用いた思考トレーニングによる空間的知能への影響およびその客観的評価		1,400
基盤研究 (C)	2019～2021	瀧本彩加 (代表：中道正之、他 1 名)
サル、ウマ、展示動物を対象とした「出会い」と「別れ」に関する行動研究		1,300
基盤研究 (C)	2019～2021	篠田朝也 (代表：松村勝弘、他 3 名)
事業内容や企業文化がコーポレート・ガバナンス構造に与える影響に関する実証研究		4,290
基盤研究 (C)	2017～2020	高橋泰城 (代表：守真太郎、他 2 名)
集合知の情報集約過程の定量的記述と社会的学習の影響		800
挑戦的研究 (開拓)	2019～2021	小川健二 (代表：乾敏郎、他 3 名)
主体的多感覚統合による知覚・認知過程の新しい枠組みの構築		9,200
挑戦的研究 (萌芽)	2019～2019	河西哲子 (代表：北城圭一、他 3 名)
ノイズ誘起脳波ダイナミクスの解析による発達障害特性の解明		3,200

文部科学省科学研究費を除く研究助成

(社会科学実験研究センター構成員が代表及び分担者を務める研究について、2019 年度に研究代表者へ交付された直接経費の総額)

資金名	期間	代表者
研究課題		金額 (千円)
科学技術融合振興財団 平成 30 年度調査研究助成	2018～2020	大沼進
決め方の事前合意がのちの合意形成に及ぼす効果：無知のヴェールが機能するとき、泣くとき		670
公益社団法人日本心理学会：災害からの復興のための実践活動及び研究	2018～2019	大沼進
除去土壌再生利用の社会的受容に関する研究		150
地層処分に係る社会的側面に関する研究	2018～2019	大沼進 (代表：野波寛、他 4 名)
地層処分をめぐる多様な人々の合意を目指す段階的・協調的アプローチの提唱：社会心理学の知見にもとづく多角的検証		2,310
AMED	2018～2020	久住一郎 (代表：中込和幸、他 1 名)
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究		1,000
日本学術振興会『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』領域開拓プログラム	2017～2020	竹澤正哲、他 5 名
アイデンティティの内的多元性：哲学と経験科学の協同による実証研究の展開		3,770
三井物産環境基金：三井物産環境基金研究助成	2017～2019	宮内泰介
災害後のコミュニティ再編と自然資源管理の再構築に関する研究		1,180
公益信託 五峯ライフサイエンス国際基金	2019	吉岡充弘
うつ病における外側手網核の役割の解明		33
愛媛大学「化学汚染・沿岸環境研究拠点 (LaMer)」2019 年度共同利用・共同研究費	2019	和田博美、他 1 名
臭素系難燃剤 BDE-209 がラットの超音波コミュニケーションに及ぼす影響と中枢作用機序の解明		100

研究業績一覧

2019 年度

【著書・分担執筆（和書）】

- 河西哲子. (2019). 脳と視覚世界との関わり. 宮崎隆志・松本伊知朗・白水浩信編. ともに生きるための教育学へのレッスン 40. 38-40. 赤石書店.
- 河西哲子. (印刷中). 3 章 知覚と認知—適応と学習のために世界を知る働き—. 加藤弘通・川田学 編. 心理学概論. ミネルヴァ書房.
- 河西哲子・蔵富恵. (印刷中). 9 章 注意の発達と脳波. 坂田陽子・日比優子・河西哲子編. 研究テーマ別 注意の生涯発達心理学. ナカニシヤ出版.
- 河原純一郎. (2019). 三浦佳世・河原純一郎編. 美しさと魅力の心理. 100-101. ミネルヴァ書房.
- 河原純一郎. (2019). 注意. 山口真美・金沢創・河原純一郎編. 心理学実験. 13-22, 153-168. 遠見書房.
- 河原純一郎. (印刷中). 注意. 箱田裕司編. 知覚・認知心理学. 82-96. 遠見書房.
- 久住一郎. (2019). 専門医の管理・治療が必要な疾患のガイドライン—統合失調症. 泉孝英編. 今日の診療のためのガイドライン 外来診療 2019. 553-555. 日経メディカル開発:東京.
- 蔵富恵・河西哲子. (印刷中). 5 章 注意の焦点範囲. 坂田陽子・日比優子・河西哲子編. 研究テーマ別 注意の生涯発達心理学. ナカニシヤ出版.
- 松尾睦. (2019). 「経験学習リーダーシップ」. ダイヤモンド社.
- 宮内泰介. (2019). 「八重子の日記」をめぐる歴史実践. 菅豊・北條勝貴編. パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦. 224-245. 勉誠出版.
- 尾崎一郎. (2019). 紛争行動/法使用行動と法文化について. 松本尚子編. 法を使う/紛争文化 (法文化叢書第 17 卷). 国際書院:東京.
- 尾崎一郎. (2019). グローバリゼーション. 佐藤岩夫・阿部昌樹編. スタンダード法社会学. 北大路書房:京都.
- 尾崎一郎. (2020). 区分所有法:法社会学的考察. 小粥太郎編. 新注釈民法 物権 2. 有斐閣.
- 尾崎一郎. (2020). 虚構を暴き、虚構に生きる. 小坂井敏晶編. 増補 責任という虚構. 489-504. ちくま書房:東京.
- 尾崎一郎. (2020). グローバリゼーション. 佐藤岩夫・阿部昌樹編. スタンダード法社会学. 北大路書房:京都.
- 尾崎一郎. (2020). 法のクレオール論再考—2つの「外」について—. 菅原寧格他編. <公正>をめぐる問い. 信山社:東京.
- 尾崎一郎・郭薇・李楊・堀田秀吾. (2019). ヘイト・スピーチの規制と無効化—言語行為論からの示唆—. ダニエル・フット他編. 法の経験的社会科学の確立に向けて—村山眞維先生古稀祝賀—. 信山社:東京.
- 篠田朝也, 藤本康男著. (2019). 中小企業のための管理会計:理論と実践. 東京図書出版.
- 鈴木智貴・田中真樹. (2019). BAY:計時中にみられた尾状核の律動性活動. 北医誌 94:33.
- 瀧本彩加. (2019). なぜヒトは伴侶動物の虜になるのか. 三浦佳世・河原純一郎編. 美しさと魅力の心理. 90-91. ミネルヴァ書房.
- 瀧本彩加. (2019). ヒトとの絆を紡ぐウマ—コミュニケーション能力に着目して. 松沢哲郎編. ウマの世界—野生の暮らしと人との関わり. 258-263. 生物の科学 遺伝.
- 和田博美. (印刷中). 甦れ脳細胞!—運動の効果とニューロジェネシス. 鈴木幸人編. 再—くりかえす世界. 北海道大学出版会:札幌市.

【学術雑誌（国際誌）】

- Ando, K., Sugiura, J., Ohnuma, S., Tam, K.-P., & Gundula, H. (2019). Persuasion Game: Cross cultural comparison. *Simulation & Gaming*. **50**(3), 532-555.
- Baba, C., Kawai, M., & Takimoto-Inose, A. (2019). Are horses (*Equus caballus*) sensitive to human emotional cues?. *Animals*. **9**, 630.
- Boyle, K. A., Gradwell, M. A., Yasaka, T., Dickie, A. C., Polgár, E., Ganley, R. P., Orr, D. P. H., Watanabe, M., Abaira, V. E., Kuehn, E. D., Zimmerman, A. L., Ginty, D. D., Callister, R. J., Graham, B. A., & Hughes, D. I. (2019). Defining a Spinal Microcircuit that Gates Myelinated Afferent Input: Implications for Tactile Allodynia. *Cell Rep*. **28**(2), 526-540.
- Fernández-Dueñas, V., Gómez-Soler, M., Valle-León, M., & Watanabe, M. (2019). Adenosine A2A-Cannabinoid CB1 Receptor Heteromers in the Hippocampus. *Molecular Neurobiology*. **56**(8), 5382-5391.
- Fernández-Dueñas, V., Gómez-Soler, M., Valle-León, M., Watanabe, M., Ferrer, I., & Ciruela, F. (2019). Revealing adenosine A2A-dopamine D2 receptor heteromers in Parkinson's disease post-mortem brain through a new AlphaScreen-based assay. *International Journal of Molecular Sciences*. **20**(14), 3600.
- Gutierrez-Mecinas, M., Bell A. M., Shepherd, F., Polgár, E., Watanabe, M., Furuta, T., & Todd, A. J. (2019). Expression of cholecystokinin by neurons in mouse spinal dorsal horn. *Journal of Comparative Neurology*, **527**(11), 1857-1871.
- Gutierrez-Mecinas, M., Bell, A., Polgár, E., Watanabe, M., & Todd, A. J. (2019). Expression of neuropeptide FF defines a population of excitatory interneurons in the superficial dorsal horn of the mouse spinal cord that respond to noxious and pruritic stimuli. *Neuroscience*. **416**, 281-293.
- Hashimoto, N., Toyomaki, A., Oka, M., Takano, K., Okubo, R., Narita, H., Kitagawa, K., Udo, N., Maeda, T., Watanabe, S., Oyanagi, Y., Miyazaki, A., Ito, K., & Kusumi, I. (2019). Pilot Validation Study of the Japanese Translation of the Brief Negative Symptoms Scale (BNSS). *Neuropsychiatric Disease and Treatment*. **15**, 3511-3518.
- Higashiyama, M., Hayashida, T., Sakuta, K., Masuya, J., Ichiki, M., Tanabe, H., Kusumi, I., & Inoue, T. (2019). Complex effects of childhood abuse, affective temperament, and subjective social status on depressive symptoms of adult volunteers from the community. *Neuropsychiatric Disease and Treatment*. **15**, 1-9.
- Inaba, M., & Takahashi, N. (2019). Linkage Based on the Kandori Norm Successfully Sustains Cooperation in Social Dilemmas. *Games*. **10**(1), doi:10.3390/g10010010.
- Kameda, M., Ohmae, S. & Tanaka, M. (2019). Entrained neuronal activity to periodic visual stimuli in the primate striatum compared with the cerebellum. *eLife*. **8**, e48702.
- Kawai, T., Miyata, H., Nakanishi, H., Sakata, S., Morioka, S., Sasaki, J., Watanabe, M., Sakimura, K., Fujimoto, T., Sasaki, T., Ikawa, M., & Okamura, Y. (in press). Polarized PtdIns(4,5)P2 distribution mediated by a voltage-sensing phosphatase (VSP) regulates sperm motility.
- Kikkawa, T., & Ohnuma, S. (2019). From Then to Now: Transformation in Simulation and Gaming in Japan. *Simulation & Gaming*. **50**(3), 491-493.
- Kitakaji, Y., & Ohnuma, S. (2019). The detrimental effects of punishment and reward on cooperation in the Industrial Waste Illegal Dumping Game. *Simulation & Gaming*. **50**(3), 509-531.
- Koga, M., Nakagawa, S., Kato, A., & Kusumi, I. (2019). Caffeic acid reduces oxidative stress and microglial activation in the mouse hippocampus. *Tissue and Cell*. **60**, 14-20.
- Li, L. M. W., Mei, D. Li, W. Q., & Lee, H. (in press). The relationship between dialectical beliefs and proenvironmental behaviors. *Environment and Behavior*.
- Li, M., Li, W. Q. & Li, L. M. W. (in press). Sensitive periods of moving on mental health and academic performance among university students. *Frontiers in Psychology*.
- Li, W. Q., Li, L. M. W., & Li, M. (2019). Residential mobility reduces ingroup favoritism in prosocial behaviour. *Asian Journal of Social Psychology*. **22**(1), 3-17.

- Maezawa, T., & Kawahara, J. (2019). Effects of visual working memory on individual differences in echolocation performance in sighted participants. *i-Perception*, **10**(4), 1–16.
- Maezawa, T., & Kawahara, J. (2019). Distance estimation by blind-folded sighted participants using echolocation. *Perception*. doi:10.1177/0301006619884788.
- Maezawa, T., Matsushita, T., Ito, K., Kaji, S., Tsunokawa, M., & Kawahara, J. (2019). The effects of visual impediment on the approaching behavior of harbor porpoise, *Phocoena phocoena*. *Mammal Study*, **44**(3), 205–213.
- Matsuo, M. (2019). Critical reflection, unlearning, and engagement. *Management Learning*, **50**(4), 465–481.
- Matsuo, M. (2019). The unlearning of managerial skills: A qualitative study of executive officers. *European Management Review*, **16**, 303–315.
- Matsuo, M. (2019). Personal growth initiative as a predictor of psychological empowerment: The mediating role of job crafting. *Human Resource Development Quarterly*, **30**, 343–360.
- Matsuo, M. (in press). Antecedents of psychological empowerment: the effects of developmental experience, learning goal and authenticity. *Asia Pacific Journal of Human Resources*.
- Matsuo, M. (in press). Empowerment through self-improvement skills: The role of learning goals and personal growth initiative. *Journal of Vocational Behavior*.
- Matsuo, M. (in press). Sales management: Learning and innovation in Japan. *Journal of Marketing Channels*.
- Matsuo, M., Arai, K., & Matsuo, T. (in press). Empowering leadership and meaningful work: the mediating role of learning goal orientation. *International Journal of Training and Development*.
- Mitterer, L. N., Baker, K. B., Beckinghausen, J., Bradnam, L. V., Cheng, M. Y., Cooperrider, J., DeLong, M. R., Gornati, S. V., Hallett, M., Heck, D. H., Hoebeek, F. E., Kouzani, A. Z., Kuo, S.-H., Louis, E. D., Machado, A., Manto, M., McCambridge, A. B., Nitsche, M. A., Oulad, N., Taib, B., Popa, T., Tanaka, M., Timmann, D., Steinberg, G. K., Wang, E. H., Wichmann, T., Xie, T., & Sillitoe, R. V. (2019). Consensus Paper: Experimental Neurostimulation of the Cerebellum. *Cerebellum*, doi: 10.1007/s12311-019-01041-5.
- Mitsui, N., Oyanagi, Y., Kako, Y., & Kusumi, I. (2019). Natural recovery from long-lasting generalized dissociative amnesia and of cerebral blood flow. *BMJ Case Reports*, e231270.
- Mitsui, N., Oyanagi, Y., Kako, Y., & Kusumi, I. (2019). Natural recovery from long-lasting generalised dissociative amnesia and of cerebral blood flow. *BMJ Case Reports*, **12**(12), doi: 10.1136/bcr-2019-231270.
- Nakamoto, C., Konno, K., Miyazaki, T., Nakatsukasa, E., Natsume, R., Abe, M., Kawamura, M., Fukazawa, T., Shigemoto, R., Yamasaki, M., Sakimura, K., & Watanabe, M. (in press). Expression mapping, quantification, and complex formation of GluD1 and GluD2 glutamate receptors in adult mouse brain. *Journal of Comparative Neurology*.
- Nakao, H., Kishimoto, Y., Hashimoto, K., Kitamura, K., Yamasaki, M., Nakao, K., Watanabe, M., Kano, M., Kirino, Y., & Aiba, A. (2019). GluR1 in cerebellar Purkinje cells is essential for formation but not expression of associative eyeblink memory. *Scientific Reports*, **9**(1), 7353.
- Ogawa, K., Mitsui, K., Imai, F., & Nishida, S. (2019). Long-term training-dependent representation of individual finger movements in the primary motor cortex. *Neuroimage*, **202**(15), 116051.
- Ohtomo, S., Hirose, Y., & Ohnuma, S. (accepted). Public acceptance model for siting a repository of radioactive contaminated waste. *Journal of Risk Research*.
- Rawangwong, A., Khongyut, S., Chomphoo, S., Konno, K., Yamasaki, M., Watanabe, M., Kondo, H., & Hipkaco, W. (2019). Heterogeneous localization of muscarinic cholinergic M1 in the salivary ducts of adult mice. *Archives of Oral Biology*, **100**, 14–22.
- Rawangwong, A., Pidsaya, A., Thongseabyou, W., Tachow, A., Sawatpanich, T., Sakaew, W., Yamasaki, M., Watanabe, M., Kondo, H., & Hipkaco, W. (2019). Localization of phospholipase C $\beta 3$ in the major salivary glands of adult mice. *Acta Histochemica*, **121**(4), 484–490.
- Saito, T., Toda, H., Inoue, T., Koga, M., Tanichi, M., Takeshita, S., Nakagawa, R., Nagamine, M., Masuya, J., Tanabe, H., Shimizu, K., Kusumi, I., & Yoshino, A. (2019). Comparison of depression and bipolar patients and healthy controls using the reclassified Child abuse and Trauma Scale. *Journal of Affective Disorders*, **257**, 396–403.
- Stegall, S. E., Collette, T., Kinjo, T., Takahashi, T. & Romanowich, P. (2019). Quantitative Cross-Cultural Similarities and Differences in Social Discounting for Gains and Losses. *Frontiers in Public Health*, **7**, 297, doi:10.3389/fpubh.2019.00297.
- Suzuki, T.W., & Tanaka, M. (2019). Neural oscillations in the primate caudate nucleus correlate with different preparatory states for temporal production. *Communications Biology*, **2**, doi: 10.1038/s42003-019-0345-2.
- Takahashi, T. (in press). Affective modulation of social discounting. *Affective science and engineering*.
- Tanda, T., & Kawahara, J. (2019). Association between cue lead time and template-for-rejection effect. *Attention, Perception, & Psychophysics*, **81**(6), 1880–1889.
- Toyoshima, K., Inoue, T., Masuya, J., Ichiki, M., Fujimura, Y., & Kusumi, I. (2019). Evaluation Of Subjective Cognitive Function Using The Cognitive Complaints In Bipolar Disorder Rating Assessment (COBRA) In Japanese Adults. *Neuropsychiatr Dis Treat*, **15**, 2981–2990.
- Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M., & Kawahara, J. (2019). Rapid identification of the face in infants. *Journal of Experimental Child Psychology*, **186**, 45–58.
- Uno, T., Kasai, T., & Seki, A. (in press). Electrophysiological Correlates Associated with the Involuntary Processing of Single Letters in the Japanese Hiragana Script. *Japanese Journal of Physiological Psychology and Psychophysiology*.
- Yamauchi, K., & Kawahara, J. (2019). A singleton distractor updates the inhibitory template for visual marking. *Acta Psychologica*, **192**, 200–211.
- Yokoyama, M., Ohnuma, S., Hirose, Y. (2019). Can the Veil of Ignorance Create Consensus?: A Qualitative Analysis Using the Siting for a Contaminated Waste Landfill Game. *Simulation & Gaming: Through times and across disciplines, past and future, heritage and progress*. 105–119.
- Yuki, M. & Schug, J. (2020). Psychological consequences of relational mobility. *Current Opinion in Psychology*, **32**, 129–132.
- Zhengfei, H., Yang, H., Yang, Y., Nishida, S., Madden, C., Ventre-Dominey, J., Dominey, P. F., & Ogawa, K. (2019). Common Neural System for Sentence and Picture Comprehension across Languages: A Chinese–Japanese Bilingual Study. *Frontiers in Human Neuroscience*, **13**, doi: 10.3389/fnhum.2019.00380.

【学術雑誌（国内誌）】

- 飯野麻里・大沼進・広瀬幸雄・大澤英昭・大友章司. (2019). NIMBY 施設の受容に対する補償の交換フレームの効果と Taboo trade-offs：高レベル放射性廃棄物地層処分場のシナリオ実験. *日本リスク研究学会誌*, **29**(2), 95–102.
- 依藤佳世・安藤香織・大沼進・広瀬幸雄. (2019). 親から子への環境配慮の規範・行動の伝播の縦断的研究. *社会安全学研究*, **9**, 131–143.
- 伊藤資浩・河原純一郎. (2019). 黒色の衛生マスクの着用が印象と魅力の知覚に及ぼす影響. *北海道心理学研究*, **41**, 1–13.
- 前田洋枝・広瀬幸雄・大沼進・大友章司. (掲載決定). 革新的エネルギー・環境戦略の社会的受容の規定因—「エネルギー・環境の選択肢に関する討論型世論調査」の手続き的公正に注目して—. *環境科学会誌*.
- 前田洋枝・広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼進. (2019). 市民参加による熟議経験の効果と今後の参加意図の規定因としてのエンパワーメントプランニングセルの参加経験者と未経験者の比較—. *社会安全学研究*, **9**, 187–204.
- 前澤知輝・宮崎由樹・松長芳織・若杉慶・柴田彰・河原純一郎. (印刷中). 衛生マスクへの着香が花粉症の不快感低減に及ぼす効果とその時間的推移. *人間工学*.

- 宮崎由樹・神山龍一・三宅大輔・河原純一郎. (印刷中). ウェットティッシュの取り出しやすさが製品の印象や製品選択に及ぼす影響. 人間工学.
- 水鳥翔伍・大沼進. (掲載決定). 札幌市真駒内地区における住民の環境に配慮した移動手段利用意図の規定因. 環境心理学研究.
- 中村航介・瀧本彩加・長谷川寿一. (2019). ウマにおけるクロスモーダルなヒトの感情認知—ウマはヒトの感情を読みとる際にその表情と音声を関連づけるか?—. 馬の科学. **56**, 20-28.
- 大沼進・広瀬幸雄・杉浦淳吉. (2019). 賛否二分法を越えた折衷案の受容とその規定因としての手続き的公正: ノイズ市におけるトラムの事例調査. 社会安全学研究. **9**, 89-101.
- 大澤英昭・大友章司・広瀬幸雄・大沼進. (2019). 高レベル放射性廃棄物地層処分施設の立地調査受容に信頼と手続き的公正が及ぼす影響. 人間環境学研究. **17**, 59-64.
- 大澤英昭・広瀬幸雄・大沼進・大友章司. (2019). 高レベル放射性廃棄物地層処分施設のサイト選定に関する意思決定プロセス—スイスと英国を例として—. 社会安全学研究. **9**, 161-176.
- 大澤英昭・広瀬幸雄・大沼進・大友章司. (2019). 高レベル放射性廃棄物の管理方策の選択に関する意思決定プロセス—スイスと英国を例として—. 社会安全学研究. **9**, 145-160.
- 大杉尚之・河原純一郎. (印刷中). お辞儀と顔の外見的特徴が主観的魅力に及ぼす影響. 認知心理学研究.
- 大友章司・広瀬幸雄・大沼進. (2019). 放射性廃棄物の長期管理施設の立地調査受容における感情, 手続き的公正, 信頼が及ぼす影響. 社会安全学研究. **9**, 177-186.
- 須山巨基・山田順子・瀧本彩加. (2019). 集団力学研究のこれまでとこれから: 同調と文化拡散に見る, 社会心理学と生物学の融合. 実験社会心理学研究. **58**(2), 161-170.
- 高橋伸幸・館石和香葉. (2019). 向社会行動. 児童心理学の進歩. **58**, 101-124.
- 竹澤正哲. (2019). 集団間葛藤と利他性の進化. 生物科学. **70**(3), 178-185.
- 竹澤正哲. (2019). 社会規範の維持と変化を説明する: 進化社会科学における未解決の問い. 人工知能学会誌. **34**(2), 168-175.
- 瀧本(猪瀬)彩加. (2019). 馬のこころ—動物心理学の研究からわかってきたこと—. BTC ニュース. **116**, 16-19.
- 瀧本彩加. (2019). ウマとヒトの絆を紡ぐ情動を介したコミュニケーション. 心理学ワールド. **85**, 23-24.
- 山本翔子・結城雅樹. (2019). トロッコ問題への反応の文化差はどこから来るのか? 関係流動性と評判期待の役割に関する国際比較研究. 社会心理学研究. **35**(2), 61-71.
- 李明, 李敏维, 李文俏, 高定国. (2019). 敬畏对道德冒险行为的影响. 应用心理学. **25**(1), 48-58.
- 【学会発表 (国際学会)】**
- Homma, S., & Takezawa, M. (2019). Risk aversion and prosocial preferences: Considering adaptive mechanisms to deal with highly uncertain environments. *The 14th Annual conference of the European Evolution and Human Behaviour Association*.
- Ito, M., & Kawahara, J. (2019). Mere presence effects of entirely task-irrelevant but significant objects on visual search performances. *Vision Sciences Society*. Kameda, M. & Tanaka, M. (2019). Dissociation of sensory from motor related signals for rhythm perception in the primate striatum and deep cerebellar nuclei. *Society for Neuroscience*.
- Kameda, M., & Tanaka, M. (2019). Neuronal correlates of temporal prediction of visual metronome in the primate striatum compared with the cerebellum. *The 2nd Timing Research Forum (TRF2)*.
- Kasai, T., Makinae, S., Fuji, A., Imiya, T., & Kitajo, K. (2019). Individual differences in early versus late selection for binding: the trait of autism-spectrum disorder varies the stage of attentional selection with temporal regularity. *Annual Meeting of Psychonomic Society*.
- Kinjo, T., Yamagata, T., Katayama, J., & Murata, A. (2019). Asymmetric delay effects on monetary gains and losses: a correlational study using behavioral and electrophysiological indicators. *The 23rd Experimental Social Science Conference*.
- Maeda, Y., & Yuki, M. (2020). Lower relational mobility leads to stronger embarrassment for success. The mediating role of "tall poppy belief". *2020 Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology*.
- Maezawa, T., & Kawahara, J. (2019). Effects of visual working memory on individual differences in echolocation performance. *The 15th Asia-Pacific Conference on Vision*.
- Maezawa, T., & Kawahara, J. (2019). Calibration of distance estimation using auditory echoic cues. *Psychonomic Society 60th Annual Meeting*.
- Mashima, R., & Takahashi, N. (2019). The effect of opportunity cost on strategies to maintain long-lasting relationships. *The 18th International Conference on Social Dilemma*.
- Matsumoto, Y., Mifune, N., Simunovic, D., Takahashi, N., Kiyonari, T., & Yamagishi, T. (2019). Are cooperators more likely to attack outgroup members in a competitive situation than defectors? *The 18th International Conference on Social Dilemma*.
- Murashige, S., Kubo, T., Nagasawa, M., Kikusui, T., Ueda, E., Takimoto-Inose, A., & Ikeda, K. (2020). Multiple Animal Pose Tracking for Social Behavior Analysis. *Winter Workshop on Mechanism of Brain and Mind 2020*.
- Nakata, S., Mori, M., & Takezawa, M. (2020). Roles of cultural transmission in the emergence of hierarchical structures: Laboratory studies using the iterated learning paradigm. *The twenty-fifth International Symposium on Artificial Life and Robotics*.
- Nakata, S., & Takezawa, M. (2019). Does teaching promote faithful transmission and the cumulative cultural evolution? Agent-based simulations with computational models of teaching. *The 14th Annual conference of the European Evolution and Human Behaviour Association*.
- Ogawa, K. (2019). Principles of fMRI multivariate analysis and its applications in cognitive neuroscience. *The Conference of Data Science, Statistics & Visualisation (DSSV2019)*.
- Ohnuma, S. (2019). Procedural fairness to foster common goal beyond conflicts. *Health, Risk Disaster (HeaRD) UK-Japan Network*.
- Ohnuma, S., Yokoyama, M., Mizutori, S. (2019). Procedural fairness as an evaluative yardstick of public acceptance: A case study of multiple stepwise participatory programs for developing a master plan for environment Sapporo Japan. *International Conference on Environmental Psychology 2019*.
- Okuyama, A., & Yuki, M. (2020). Are there cultural differences in positive empathy? The role of relational mobility. *2020 Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology*.
- Oohata R., Ogawa K., & Imamizu H. (2019). Neural mechanisms for adaptive change of behaviors while car-driving. *25th annual meeting of The Organization for Human Brain Mapping*.
- Qi, I., & Wada, H. (2019). Effects of decabromodiphenyl ether (BDE-209) on ultrasonic communication upon play fighting in juvenile rats. *17th International Neurotoxicology Association*.
- Shahrier, M. A., & Wada, H. (2019). Acoustic characteristics of play fighting-induced ultrasonic vocalizations in juvenile rat prenatally exposed to ethanol. *17th International Neurotoxicology Association*.
- Takeya, R., & Tanaka, M. (2019). Spontaneous grouping of synchronized eye movements in monkeys and humans. *The 2nd Timing Research Forum (TRF2)*.
- Takeya, R., & Tanaka, M. (2019). Neuronal signals regulating and monitoring of synchronized saccade timing in the primate deep cerebellar nuclei. *Society for Neuroscience*.
- Takimoto-Inose, A., Baba, C., Mitani, T., & Kawai, M. (2019). Social buffering by conspecifics and humans in adult domestic

- horses. *The 14th International Conference on Environmental Enrichment (ICEE2019)*.
- Tanaka, M. (2019). Two distinct subcortical signals for self-timing. *Pre-NCM meeting on Eye and Head Movement Control System in Kyoto*.
- Tanaka, M. (2019). Subcortical signals for temporal prediction of periodic events. *2019 Gordon Research Conference of Cerebellum*.
- Tanaka, M. (2019). Subcortical signals for temporal prediction of rhythmic events. *The 2nd Timing Research Forum (TRF2)*.
- Tanda, T. & Kawahara, J. (2019). Association between cue lead time and template-for-rejection effect. *Object Perception, Attention, and Memory 27*.
- Tanda, T., & Kawahara, J. (2019). Object-based template for rejection. *Vision Sciences Society*.
- Tateishi, W., & Takahashi, N. (2019). The effect of universal institutions on intergroup cooperation. *The 18th International Conference on Social Dilemma*.
- Yamagata, T., Kinjo, T., Katayama, J., & Murata, A. (2019). Delay effects on neural evaluation of monetary gains and losses: An event-related brain potential (ERP) study. *The 59th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research*.
- Yamauchi, K., Kihara, K., & Kawahara, J. (2019). Predicting sustained performance over a short time. *OPAM27*.
- Yang, H., Yang, Y., & Ogawa, K. (2019). Effects of neurofeedback on the activities of the motor-related areas using execution and imagery. *25th annual meeting of The Organization for Human Brain Mapping*.
- Yokoyama, M., Ohnuma, S., & Hirose, Y. (2019). Can the Veil of Ignorance Create Consensus?: A Qualitative Analysis Using the Siting for a Contaminated Waste Landfill Game. *The International Simulation and Gaming Association 50th Anniversary Conference*.
- Yuki, M., Maeda, Y., Zhang, F., & Li, W. Q. (2020). Low Relational Mobility, Fear of Sticking Out, and Embarrassment about Remarkable Contributions in the East Asian Ecological Context. *2020 Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology*.
- 【学会発表（国内学会）】**
- 安藤香織・杉浦淳吉・大沼進・Tam, K-P・Hübner, G.・安達菜穂子. (2019). 説得納得ゲームの効果の国際比較. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 張ディ・和田博美. (2019). 単飼育と群飼育が思春期雌ラットの不安およびうつ様行動に及ぼす影響. 第 5 回北海道大学部局横断シンポジウム.
- 藤亮裕・河西哲子・北城圭一. (2019). 健常大学生の ADHD 傾向による刺激の時空間的構造化の影響の違い. 第 37 回日本生理心理学会.
- 平山詠大・宇野智己・藤亮裕・河西哲子. (2019). 記憶の負荷は早期知覚過程に影響するか. 北海道心理学会第 66 回大会.
- 本間祥吾・竹澤正哲. (2019). 負の予測誤差とリスク下の意思決定の関係：強化学習の進化モデルを用いた検討. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 本間祥吾・竹澤正哲. (2019). 予測誤差とリスク下の意思決定：強化学習エージェントの進化シミュレーション. 日本人間行動進化学会第 12 回大会.
- 伊藤資浩・河原純一郎. (2019). 刺激特性に着目した注意の目覚めの生起条件. 日本基礎心理学会第 38 回大会.
- 伊藤資浩・河原純一郎. (2019). 作業記憶の容量及び精度に及ぼす香りの効果. 北海道心理学会第 66 回大会.
- 伊藤資浩・河原純一郎. (2019). 時空間次元における文脈に基づく探索・隠蔽戦略. 日本心理学会第 83 回大会若手の会.
- 伊藤資浩・山内健司・宮崎由樹・河原純一郎. (2019). 画像のサムネイル化が知覚する魅力に及ぼす効果. 日本心理学会第 83 回大会.
- 今井史・小川健二. (2019). 動的視覚イメージの身体的要素と運動シミュレーションの関係. 日本認知心理学会第 17 回大会.
- Kamatani, M. & Takimoto, A. (2019). Do domestic horses (*Equus caballus*) show a visual preference for the same-age conspecifics? 日本動物心理学会第 79 回大会.
- 鎌谷美希・瀧本彩加. (2019). ウマは同年齢の同種他個体への視覚的選好を示すか? 第 12 回日本人間行動進化学会.
- 久住一郎. (2019). 統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド. 第 115 回日本精神神経学会.
- 久住一郎. (2019). 統合失調症患者の身体モニタリング～糖脂質代謝障害の予防を考える. 第 8 回日本精神科医学会学術大会.
- 久住一郎. (2019). 日本食とメンタルヘルス～栄養精神医学の可能性. 第 57 回全国大学保健管理研究集会.
- 久住一郎. (2019). 双極性うつ病の診断と治療. 特別企画 2：心身医学を専門とする医師に知ってもらいたいこと～精神医学から. 第 2 回日本心身医学関連学会合同集会／第 60 回日本心身医学会総会.
- Lin, L., & Cai, X. (2019). Effects of Formal Mentoring Implementation on Work Engagement: Meaningfulness of Work as a Mediator. 経営行動科学会.
- 前田友吾・結城雅樹. (2019). ポジティブ状況における羞恥感情の文化差－関係流動性の役割に関する社会生態心理学的分析－. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 前田友吾・結城雅樹. (2019). ネガティブ・ポジティブ状況における羞恥の文化差とその要因－関係流動性の役割－. 日本心理学会.
- 前原美紀・河原純一郎. (2019). 人物を含むネガティブな光景での刺激配置と注意バイアス. 日本基礎心理学会第 38 回大会.
- 蒔苗詩歌・河西哲子・北城圭一. (2019). 健常大学生の ASD 傾向による刺激の時空間的構造化の影響の違い. 第 37 回日本生理心理学会.
- 前澤知輝・河原純一郎. (2019). エコロケーション感度の個人差と視空間作業記憶. 「注意と認知」. 第 17 回合宿研究会.
- 前澤知輝・河原純一郎. (2019). 反響音手掛かりによる標的距離推定に及ぼす内的バイアスの影響. 第 17 回日本認知心理学会.
- 前澤知輝・河原純一郎. (2019). 晴眼者のエコロケーション能力に及ぼす訓練の影響と持続効果. 北海道心理学会第 66 回大会.
- 前澤知輝・河原純一郎. (2019). 視聴覚同時手がかりによる空間表象の干渉と共有. 日本基礎心理学会第 38 回大会.
- 前澤知輝・河原純一郎. (2019). 晴眼者の反響定位による標的距離推定と過大過小推定バイアス. 日本基礎心理学会第 38 回大会学生オーラルセッション.
- 前澤知輝・河原純一郎. (2019). 課題の反復実施による反響定位能力の向上と維持. 第 11 回多感覚研究会.
- 前澤知輝・松石隆・伊藤精英・梶征一・角川雅俊・河原純一郎. (2019). ネズミイルカ(*Phocoena phocoena*)の標的への接触行動に及ぼす視覚阻害の影響. 日本心理学会第 83 回大会.
- 前澤知輝・山内健司・河原純一郎. (2019). 商品広告表示の時空間方向の一致性による商品魅力の向上. 「顔・身体学」第 5 回領域会議.
- 真島理恵・高橋伸幸. (2019). 長期的関係への投資行動と機会コストの関係の検討. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 真島理恵・高橋伸幸. (2019). 長期的関係維持行動に対する機会コストの効果. 日本人間行動進化学会第 12 回大会.
- 宮内泰介. (2019). 被災地住民にとってのコミュニティ再編とその重層性. 第 59 回環境社会学会大会.

- 宮内泰介. (2020). ライフヒストリーから見るイワシ産業の地域史：長崎県雲仙市南串山町の事例から. 地域漁業学会第 61 回大会.
- 水鳥翔伍・大沼進・Hommerich, C. (2019). 社会関係資本と環境配慮行動の関連の検討：札幌市における社会調査データの分析. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 水鳥翔伍・大沼進・Hommerich, C. (2020). 社会関係資本は環境配慮行動を促進するか—札幌市での社会調査—. 日本環境心理学会第 13 回大会.
- 永田正樹. (2019). 部下育成のためのリフレクション支援. 経営行動科学学会.
- 中田星矢・竹澤正哲. (2019). 文化伝達の中から創発する構造—非言語課題を用いた実験による検討—. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 根深真央・大村優・吉岡充弘. (2019). セロトニン 5-HT_{2C} 受容体が自発運動活性、不安、恐怖記憶の制御に果たす役割の解明. 第 92 回日本薬理学会年会.
- 西谷直也・大村優・吉田隆行・山中章弘・吉岡充弘. (2019). Cas9 ノックインマウスを利用した 5-HT_{1A} の *in vivo* ゲノム編集. 第 92 回日本薬理学会年会.
- 中田星矢・森瑞希・竹澤正哲. (2019). 階層構造の創発における文化伝達の役割：繰り返し学習を用いた実験的検討. 日本人間行動進化学会第 12 回大会.
- 野島由衣・キイメイ・和田博美・田辺信介・野見山 桂. (2019). 母親を介した発達期 BDE-209 曝露による脳神経系およびラット超音波発声への影響評価. 内分泌攪乱化学物質学会.
- 小川健二. (2019). 他者の立場に立つて考えることの神経基盤. 京都大学こころの未来研究センター 認知科学セミナー.
- 奥山新斗・結城雅樹. (2019). ポジティブ共感の文化差とその要因—社会生態心理学による 関係流動性の効果の検討—. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 大沼進. (2019). 環境・エネルギー政策決定プロセスにおける手続き的公正性と社会的受容. 第 32 回日本リスク研究学会年次大会.
- 大沼進. (2019). 除去土壌の問題と帰還困難解除された地域で生活再建を目指す人々. 日本心理学会第 83 回大会.
- 大沼進. (2019). 日本における高レベル放射性廃棄物地層処分候補地選定プロセスが少しでも動くようになるためには？：実験社会科学的接近. 第 3 回フューチャー・デザイン研究会.
- 大沼進・横山実紀・広瀬幸雄・大澤英昭・大友章司. (2019). 無知のヴェールを用いた手続き的公正に基づく社会的決定：日本における高レベル放射性廃棄物地層処分候補地選定を題材とした仮想シナリオ実験. 第 32 回日本リスク研究学会年次大会.
- 大沼進・横山実紀・広瀬幸雄・大澤英昭・大友章司. (2019). 無知のヴェールによる手続きの公正さが社会的受容に及ぼす効果：高レベル放射性廃棄物地層処分候補地選定に関するシナリオ実験. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 大沼進・横山実紀・竹田宜人・万福裕造. (2019). 帰還困難区域から日常生活を取り戻す営みと 除去土壌をめぐる認識の地域差. 日本心理学会第 83 回大会.
- 大村優・西谷直也・吉田隆行・吉岡充弘. (2019). 光遺伝学を用いたニコチン離脱症状に関わるセロトニン神経回路の解明. 第 92 回日本薬理学会年会.
- Qi, I., & Wada, H. (2019). Effects of decabromodiphenyl ether (BDE-209) on ultrasonic communication upon play fighting in juvenile rats. 第 5 回北海道大学部局横断シンポジウム.
- 笹森瞳・大村優・吉岡充弘. (2019). ノルアドレナリントランスポーターの阻害により、内側前頭前野腹側部のドパミン D1 様受容体が刺激され、衝動性の制御機能が向上する. 第 92 回日本薬理学会年会.
- 佐藤和成・大沼進・水鳥翔伍・Hommerich, C. (2019). 社会参加は主観的ウェルビーイングを向上させるか：札幌市まちづくりに関する調査. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 佐藤和成・水鳥翔伍・白川満由花・大沼進・Hommerich, C. (2020). ソーシャルキャピタルと幸福感の関連の総合的検討—札幌市における社会調査から—. 日本環境心理学会第 13 回大会.
- 澤頭亮・田中真樹. (2019). Ketamine-induced alterations in memory capacity and exploratory behavior during oculomotor foraging in monkeys. 第 42 回日本神経科学大会.
- 澤頭亮・田中真樹. (2019). 採餌行動のモデルとケタミンによる変化. 日本生理学会北海道地方会.
- Shahrier, M. A., & Wada, H. (2019). Acoustic characteristics of play fighting-induced ultrasonic vocalizations in juvenile rat prenatally exposed to ethanol. 第 5 回北海道大学部局横断シンポジウム.
- 柴田寛・小川健二. (2019). 単語と写真から文字表象と視覚表象を生成する過程の検討：fMRI 研究. 東北心理学会第 73 回大会.
- 柴田裕介. (2019). 相互作用的マネジメントコントロールシステムがビジョン共有に与える影響. 経営行動科学学会.
- 篠田朝也・丸田起大. (2019). 製品開発段階におけるコスト目標設定の効果と課題—実験室実験の結果から—. 会計理論学会.
- 朱瑤・大沼進. (2019). 仮想世界ゲームにける共通運命と地域間葛藤解消の社会的表象過程—ソシオメトリを用いた分析. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2019 年度秋期全国大会.
- 竹谷隆司・田中真樹. (2019). Neurons in the primate deep cerebellar nuclei carry both temporal prediction and error signals during synchronized saccades. 第 42 回日本神経科学大会.
- Tanaka, M. (2019). 計時と予測の神経機構. 2019 年度 東大機能生物学セミナー.
- Tanaka, M. (2019). 時間予測と小脳、基底核. 第 49 回日本臨床神経生理学会.
- Tanaka, M. (2019). 時間のタスクにおける基底核と小脳の違い. 第 34 回日本大脳基底核研究会 (JBAGS2019) シンポジウム.
- 田中勇希・和田博美. (2019). ゲートウェイ反射と超音波コミュニケーション測定との融合解析による自閉症スペクトラム障害マウスの病態解明. 第 5 回北海道大学部局横断シンポジウム.
- 反田智之・前澤知輝・河原純一郎. (2019). 丸い物体の好ましさを判断に及ぼす呈示時間および評価法の影響. 第 17 回日本認知心理学会.
- 館石和香葉・高橋伸幸. (2019). 集団を越えた協力に対する普遍的な罰制度の効果の検討. 日本グループ・ダイナミックス学会第 66 回大会.
- 館石和香葉・高橋伸幸. (2019). 第三者による罰行動の正当性が高いのはいかなる状況か—6 つの経済ゲーム状況の間での比較—. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- 館石和香葉・高橋伸幸. (2019). なぜ集団を越えた協力が達成できないのか？—普遍主義者の評判に関する実験的検討—. 日本人間行動進化学会第 12 回大会.
- 唐雨婷. (2019). 人間尊重ベースの人的資源管理—マネジメント・コントロールの視点から. 日本原価計算研究学会.
- 豊森開・河原純一郎. (2019). ネガティブな顔写真と漫画顔への注意バイアス. 日本基礎心理学会第 38 回大会.
- 土田修平・竹澤正哲. (2019). 罰に対する感受性と協力の進化. 日本社会心理学会第 60 回大会.
- Ueda, E., Nagasawa, M., Kubo, T., Murashige, S., Ikeda, K., & Takimoto, A. (2019). An exploratory study about gait synchronization between horses and humans by measuring acceleration. 日本動物心理学会第 79 回大会.

上田江里子・永澤美保・久保孝富・村重哲史・池田和司・瀧本・猪瀬彩加. (2019). ヒト-ウマ間での歩行同期の加速度計測による探索的検討. 日本発達神経科学学会第8回学術集会.

宇野智己・河西哲子. (2019). 文字列に対する早期ERP成分の刺激の繰り返しによる影響. 第37回日本生理心理学会.

渡辺晋也. (2019). 社交不安がうつ病エピソードに伴う自殺念慮に与える影響について. 第11回日本不安症学会学術大会.

山内健司・華学光・河原純一郎. (2019). 完全な課題非関連な顔による注意捕捉. 日本基礎心理学会第38回大会.

山内健司・反田智之・前澤知輝. (2019). 日本人のEラインからみた横顔魅力. 「顔・身体学」第5回領域会議.

山内健司・反田智之・前澤知輝・河原純一郎. (2019). 顔魅力における横顔と正面顔の関係性およびEラインが横顔魅力に及ぼす影響. 日本心理学会第83回大会.

横山実紀・大沼進・近藤由基. (2019). NIMBY問題における負担の分散が社会的受容に与える影響：除去土壌再生利用事業を用いた仮想シナリオ実験. 日本心理学会第83回大会.

横山実紀・大沼進・近藤由基. (2019). NIMBY問題における負担の分散が社会的受容に与える影響：除去土壌再生利用事業を用いた仮想シナリオ実験. 廃棄物資源循環学会北海道支部発表交流会.

横山実紀・大沼進・近藤由基. (2020). 除去土壌再生利用は全国で広く負担を分担することが社会的受容を高める. 日本環境心理学会第13回大会.

横山実紀・大沼進・広瀬幸雄. (2019). 無知のヴェールは忌避施設立地問題の合意形成を促進するか：指定廃棄物処分立地ゲームを用いた公正の観点による検討. 日本社会心理学会第60回大会.

横山実紀・大沼進・近藤由基. (2019). 除去土壌再生利用事業を題材としたNIMBY問題の社会的受容に関する検討：負担分散の合意形成促進効果. 第32回日本リスク研究学会年次大会.

行平大樹・竹澤正哲. (2019). 環境の厳しさが社会規範の厳しさに与える影響：空間的自己相関を統制した再分析. 日本人間行動進化学会第12回大会.

付録 組織構成員

(2020年3月現在)

(1) 兼務教員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
渡辺雅彦	医学研究院・教授、 社会科学実験研究副センター長
和田博美	文学研究院・教授
宮内泰介	文学研究院・教授
尾崎一郎	法学研究科附属高等法政教育研究センター・教授
松尾睦	経済学研究院・教授
篠田朝也	経済学研究院・准教授
吉岡充弘	医学研究院・教授
久住一郎	医学研究院・教授
田中真樹	医学研究院・教授
結城雅樹	文学研究院・教授
高橋泰城	文学研究院・准教授
高橋伸幸	文学研究院・教授
竹澤正哲	文学研究院・准教授
小川健二	文学研究院・准教授
瀧本彩加	文学研究院・准教授
河原純一郎	文学研究院・准教授
河西哲子	教育学研究院・教授
中島晃	文学研究院・助教

(2) 連携研究員一覧

坂上雅道	玉川大学脳科学研究所、 大学院脳情報研究科・教授
亀田達也	東京大学大学院人文社会系研究 科・教授
増田貴彦	アルバータ大学・教授

Harvey	オックスフォード大学・教授
Whitehouse	
Kim-Pong Tam	香港科技大学・准教授
仲 真紀子	立命館大学総合心理学部・教授

(3) 運営委員会委員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
渡辺雅彦	医学研究院・教授
相原 基大	経済学研究院・准教授
宮内泰介	文学研究院・教授
谷本陽一	地球環境科学研究院・教授
田畑伸一郎	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
小川健二	文学研究院・准教授
尾崎一郎	法学研究科・教授
河西哲子	教育学研究院・教授
松尾睦	経済学研究院・教授

(4) 研究倫理委員会委員一覧

高橋伸幸	文学研究院・教授
松尾睦	経済学研究院・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・准教授
河合正人	北方生物圏フィールド科学センター・ 准教授

(5) 点検評価委員会委員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
結城雅樹	文学研究院・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・准教授 (外部委員)
谷口 貢	文学研究院・文学部事務長



社会科学実験研究センター